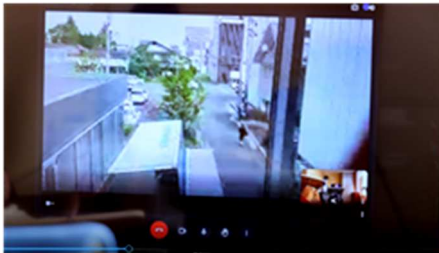



教材・支援機器活用実践事例【ICT】

間接的な共同学習を実現するための ICT 活用 「修学旅行における同級生とのリモート通信」

子どもについて	所属・学年	特別支援学校 高等部 3年（重複障がい学級）
	障がい名等	病弱
	子どもの実態 (学習上又は生活上の困難さ等)	・視力は明暗がかろうじてわかる程度。極度の側弯があり、常時介助を必要とする。医療的ケアとして痰の吸引、胃瘻が必要。
授業について (教材・教具を使用した授業や指導場面)	教科名等	特別活動（学校行事）
	単元(題材)名	題材名「修学旅行」
	単元(題材)の概要	日帰りの修学旅行で、感染症予防のため一緒に参加できない同級生とのリモート通信を行い、現地の様子を伝えたり、質問に応答したりする。
教材・教具支援機器について	教材・教具 支援機器	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行先にタブレット、ポケット wi-fi を持参し、学習場所と現地を Google Meet で繋ぐ。  
	ねらい・工夫点	<p>〈ねらい〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今経験をしていることをリモート通信で同級生から伝えられることで人とかかわる意欲と、コミュニケーション能力の向上を図る。 <p>〈工夫点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前にポケット Wi-Fi を使用したりリモート通信を複数回、ベッドサイド授業で行い、仕組みの理解ややりとりの工夫ができるようにする。 ・修学旅行のどの場面で接続するかを事前に計画し、10分程度の時間で参加している双方のねらいが達成できるようにする。
	材料・作成方法等	タブレット、アプリ（Google Meet）、ポケット Wi-Fi
子どもの変容や評価		<ul style="list-style-type: none"> ・知っている教師や友達の声が聞こえると相手が誰であったかを理解し、満面の笑みを浮かべた。また、音声のやり取りを通して笑い声を出し、楽しんでいた。事後学習でもこの場面のビデオを見せると、笑って楽しさを表現することができている。 ・導入時に使用する画像を拡大して見ることで、単元の内容の見直しをもつことができた。